

YOSAKOI サマースクール

坂本 季実子¹ 福留 園子¹

八田 章光^{2*}

(受領日：2013年5月2日)

¹ 高知工科大学 国際交流部
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185

² 高知工科大学 国際交流センター長
(システム工学群 電子・光系)
〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185

*E-mail: hatta.akimitsu@kochi-tech.ac.jp

要約：高知工科大学国際交流センターでは、海外の学生と本学学生との交流を目的とし、平成24年度8月に「YOSAKOI サマースクール」を初めて開催した。国際交流協定締結大学である中国の瀋陽工業大学とタイの泰日工業大学から学生を招き、学内での講義・実習、県内高等学校との交流、よさこい祭り参加、県東部視察等のプログラムを行い、学内のみならず地元高知での文化・国際交流に寄与した。

1. はじめに

文部科学省では、若い世代の「内向き志向」を克服し、国際的な産業競争力の向上や国と国の絆の強化の基盤として、グローバルな舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を図るため、平成24年度予算案において新たに「グローバル人材育成推進事業」を公募するなど、積極的にグローバル人材の育成を奨励している。

本学においても、グローバル人材の育成は喫緊かつ重要な課題であり、国際交流センターにおいて効果的なプログラムの開発に取り組んでいる。

近年、特にアジアの大学においては、夏期休暇等を利用して短期間で実施するサマープログラムの実施が盛んであり、こうしたプログラムを利用して海外から学生を招き、その後の留学や大学広報につながる動きが活発である。

本学においても、平成24年度、日本と海外の学生間の相互理解、異文化理解を図り、本学におけるグローバル人材の育成や大学間交流の進展、日本の学生の海外留学や海外の学生の日本留学を促進す

るため、新たな国際交流事業として「YOSAKOI サマースクール」を企画・実施した。

2. YOSAKOI サマースクール

2.1 概要

YOSAKOI サマースクールは、海外大学の学生を本学に招くことにより、日本にいながら異文化に触れ、海外の学生と交流できる機会を本学学生に提供すること、協定締結大学との交流を深化させること、専門分野に特化した交流や大学広報を目的とする開催等、今後のより戦略的なサマースクール開催に向けた試行とすることを目的として開催された。

本学キャンパスを活動拠点とし、2013年8月5日～14日の10日間、瀋陽工業大学から8名、泰日工業大学から5名の学生を招いて実施した。海外からの招待学生は、工学の基礎知識を持つ学生とし、各大学に選考を一任した。瀋陽工業大学からは、工学系の学生5名に加えて、昨夏に本学卓球部の学生が訪問した卓球交流をきっかけとして卓球部員3名が参加した。また泰日工業大学からは、本学大学院博士後期課程修了者で、現在同大学で講師を務め

る Dr. Wimol SAN-UM が引率者として参加した。本学からの参加学生の募集は、海外の学生との交流に関心があること、企画の全行程に原則参加できること、交流に必要な英語力があること、本学を代表する学生として相応しい人物であることを条件に行い、書類（TOEIC 成績、志望理由）により国際交流センターで参加者を決定した。当初、招待学生と同数の 13 名が全日程参加することを目標としていたが、集中講義やインターンシップと日程が重なっていたこと、募集までの告知期間が短かったこと等から、のべ 12 名の学生が参加し、これに卓球部員が一部日程に加わることとなった。

2.2 プログラム内容

プログラム初日の 8 月 5 日（日）は、到着した学生、引率教員を宿泊施設に案内したあと、自由行動とした。初日から、数名の本学学生が地元の神戸ノ木大川祭りや近隣の商業施設に招待学生を案内し、プログラム外の交流を楽しんでいた。

翌日以降 3 日間は、本学キャンパスにおいて活動を実施した。2 日目（8 月 6 日（月））は、オープニングセレモニーの後、キャンパスツアーを実施した。ドミトリー、情報図書館、体育施設に加え、王碩玉教授の知能ロボティクス研究室、ナノテクノロジー研究所、MRI などの設備を見学した。昼には学長、卓球部顧問の浜田美穂教授、卓球部員を招いて歓迎昼食会を開いた。瀋陽工業大学から引率者として来日した林琳教諭は卓球部の顧問であり、昨年度の交流研修や世界を舞台にした浜田教授の競技歴についての話に花が咲いた。



卓球部との合同練習

午後から、瀋陽工業大学の卓球部員 3 名は本学卓球部との合同練習に参加し、その他の参加者は日本

人学生と共に講義を受講した。講義は、「Electronics & Photonics for Sustainable Development」をテーマに八田が行った。夕方には本学のよさこい踊り子隊の練習を見学し、数日後の本祭に思いを馳せた。

3 日目（8 月 7 日（火））は、「Opto-Electronics Innovation (from Shikoku, Japan): Introductory Lecture about LED and LD」と題し、野中弘二教授が行った講義で LED の電気特性等について学び、その後、分光測定、イルミネーションキット（LED）製作の実習を行った。午後からは、8 月 10 日（金）、11 日（土）に参加するよさこい祭りで披露する踊りの練習を行った。



LED に関する講義

4 日目（8 月 8 日（水））は、午前中は簡単な日本語と、華道やしばてん踊りなどの日本文化を体験学習した。午後は、翌日の高校での交流に向けて、それぞれの国や文化等に関するプレゼンテーションの準備を行った。

5 日目（8 月 9 日（木））は、高知県立高知南高等学校において、中国、タイ、高知南高校、高知工科大学の 4 グループに分かれて、それぞれの国や文化についての発表を行った。中国、タイの学生からは、それぞれの国の踊りや踊りの衣装が披露された。昼食をとりながらの交流のあとは、書道や日本の伝統的な遊びの体験、ゲームなどで親睦を深めた後、高知南高校の生徒も交え、高知城やひろめ市場等、よさこい祭りの前夜祭でにぎわう高知市内の散策に赴いた。

6 日目、7 日目（8 月 10 日（金）、11 日（土））は、よさこい祭りに参加した。参加したのは、県内在住の国際交流員や教職員らを主体とする「響よさこい国際交流隊&教職員友の会」という総勢約 80 名の

グループで、参加者らはお揃いのよさこい衣装に身を包み、LED 鳴子を両手に持って隊に加わった。はじめはぎこちない様子だった参加者も、半日を過ぎるころには祭りの雰囲気に馴染み、笑顔で鳴子を鳴らし、いきいきと踊るようになった。残念ながら天候が芳しくなく、一時は雷雨にも見舞われたが、けが人や体調不良者を出すことなく祭りを終えることができた。後に提出された報告書でも、よさこい祭りでの体験に触れた学生が多かったことから、最も印象的なプログラムとなったようである。



よさこい祭り

8日目、9日目(8月12日(日)、13日(月))は室戸方面に向けてバスツアーを行った。吉良川の町並み、室戸ジオパーク、海洋深層水学習施設、岩崎弥太郎生家、龍河洞を訪れ、高知県の歴史や環境について学んだ。宿泊した最御崎寺では、招待者の多くがはじめて温泉を体験したこともあって大いに盛り上がり、文字通り裸の付き合いで親睦を深めた様子で、次の日からは、更に目に見えて交流が活発になった。また9日目の最後には関係者を集めて送別会を行い、中国とタイの踊りが披露され、本学からは記念品が贈られた。解散後も別れ難く、話を続ける学生の姿があちこちに見られた。

最終日(8月14日(火))には、参加の義務はなかったにも関わらず、多くの日本人学生が空港まで見送りに出向き、別れを惜しみ、再会を約束し合っていた。

3. おわりに

YOSAKOI サマースクールは、本年度、初めて開催した国際交流プログラムである。事故や大きな問題なくプログラムを終了することができ、また招待

者にも満足を与えることができ、初回としては成功であったと言える。参加した日本人学生も10日間の交流を通じ招待学生と十分な親睦を深め、プログラム終了後も Facebook 等により交流を継続している。日本にいながら外国人学生と交流できるプログラムとしては、一定の成果をあげることができた。

一方で、解決すべき多くの課題も残った。最も取り組むべきは、日本人学生の参加者増と積極的交流の促進である。上述のとおり、開催時期が集中講義やインターンシップと重なっていたこと、募集までの告知期間が短かったこと等から、全日程参加できたのはわずか4名に留まった。また参加したものの、教職員が促すまで交流に踏み込まない参加学生も少なからずいた。国際交流を目的とする事業として、量、質ともに改善が必要である。今後は事前の広報に力をいれ、より多くの参加学生を集め、モチベーションを培う事前研修を充実させる必要がある。

開催目的のひとつであった交流協定締結大学との交流の深化については、大きな成果をあげることができた。瀋陽工業大学とは昨年度中国において実施した卓球交流に引き続いての交流プログラムであり、一方の泰日工業大学には、本年度末、本学からの海外研修として学生10名を3日間、派遣した。連続したプログラムの実施により双方の大学間の距離は目に見えて縮まった。

YOSAKOI サマースクールは本学におけるグローバル人材育成、国際交流の進展に寄与するプログラムとしては効果的なプログラムであったと総括でき、今後も改善を行いながら、継続的に実施する予定である。

謝辞

YOSAKOI サマースクールに参加し海外からの参加者のサポートをしてくれた本学学生の皆さんに、また開催にあたり、国際交流部と国際交流センターのメンバーのみならず高知工科大学事務局職員と多くの教員からご協力を頂いたことに感謝します。またプログラムに協力していただいた英語科の澤田朝子先生をはじめとする高知県立高知南高等学校の先生方、同校国際交流部の皆さん、「響よさこい国際交流隊&教職員友の会」の山中千枝子代表ならびに運営スタッフの皆様にも感謝の意を表します。

YOSAKOI Summer School

Kimiko Sakamoto^{1*} Sonoko Fukudome¹

Akimitsu Hatta^{2*}

(Received: May 2nd, 2013)

¹ International Relations Division, Kochi University of Technology,
185 Tosayamadacho-Miyanokuchi, Kami, Kochi, 782-8502, JAPAN

² Chair, International Relations Center,
School of Systems Engineering, Kochi University of Technology,
185 Tosayamadacho-Miyanokuchi, Kami, Kochi, 782-8502, JAPAN

* E-mail: hatta.akimitsu@kochi-tech.ac.jp

Abstract: International Relations Center, Kochi University of Technology organized an international summer program called “YOSAKOI Summer School” in August, 2012 for the first time in its history. It was aimed at establishing international relationship between overseas students and our university’s students. The students from Shenyang University of Technology, China, and Thai-Nichi Institute of Technology, Thailand, with which we have concluded international exchange agreements, attended the program and enjoyed academic experiences, cultural exchange program with local high school students, local dancing festival named “Yosakoi Festival,” study tour to the east part of Kochi Prefecture, and so on. Through these activities, the program played a significant role for activation of international cultural exchange not only within the university but also in the Kochi area.